

静岡県静岡市における地震防災に関するフォーラムの開催について

平成 19 年 11 月 1 日（木）に静岡県静岡市で地震防災に関するフォーラムが開催されました。「あなたとあなたの家族を守るために」をテーマに約 180 人が出席し、津波防災や住宅の耐震化の重要性について活発な討議が行われました。

1. 講演

(1) 「津波被害から身を守るために」首藤 伸夫 日本大学大学院総合科学研究科教授

自然現象としての津波の特徴について次のように解説されました。

- ・ 2002 年インド洋巨大津波でも、場所や海岸の地形により被害の様相は異なった
- ・ 津波は陸が浅くなるにしたがい波は高くなる。湾の奥では波が高くなる、湾の地形により波が反射し何度も繰り返しやってくる。などの特徴がある。
- ・ 津波警報の津波高は、海底面のゆるやかな変位を前提に計算されているため、一部の急激な地形変化の影響による津波の高さは予想できないことがある。そのため実際の津波高は発表より倍くらいの高さになることもあると思っていた方がよい。

津波対策についてはハード面とソフト面の両方が必要であると述べられ、実例を交え解説されました。

- ・ 防潮堤はそれを越える高さの津波に対しては無力である。
- ・ 海岸では津波より高い高所に逃げるのが基本である。避難場所として人工地盤などの高い構造物を迅速に逃げ込める場所に作ることも有効である。
- ・ 鉄筋コンクリートの建物は津波に対して強いことが実例で証明されている。
- ・ 津波はまばらに発生する災害で、その経験を継承することが非常に難しい。コンピューター・シミュレーションなども活用し、災害経験を次世代へ継承し危機意識を風化させないことがなにより重要である。

(2) 「耐震化の必要性」福和 伸夫 名古屋大学大学院環境学研究科教授

耐震化の必要性について、独自に開発されたモデルなども用いてわかりやすく解説されました。要点は以下のとおりです。

- ・ 個人ができる地震防災のポイントはよい地盤の場所に住んでいるか、耐震性のある住宅に住んでいるかである。
- ・ かつては人が住まないような地盤の悪い場所に住宅や重要施設が集中したことで、次に来る東海・東南海・南海地震の被害は、60 年前よりはるかに大きくなること

が予想される。その経済的な損失は日本のみならず、世界経済を破綻に追い込む危険性もはらんでいる。

- ・地盤が悪い土地を探すとき、地名はその原地形を知るための有力な材料となる。また、昔と現在の街のある場所を比べてみてもわかる。先人の知恵から学ぶことは多い。
- ・政府の地震防災戦略は 10 年で被害を半減させる方針で、耐震化率を 90%まで上げ、そのための徹底的な意識啓発を行うことにしている。
- ・耐震化推進のハードルには意識の問題と技術の問題があるが、技術的な問題は克服されつつある。これからは、「意識」の問題をどう克服するかが最も重要になる。その意味でも学校教育における防災教育の役割は非常に重要である。

2. パネルディスカッション「あなたとあなたの家族を守るために」

(1) 耐震化、津波防災、防災教育についての討論

参加されたパネリストの活動状況について紹介がなされた後、防災教育の重要性を中心に討論が行われました。要点は以下のとおりです。

- ・学校だけでなく、家庭や地域における防災について学ぶことは重要であるが、それを推進する方策は課題である。
- ・災害を経験した世代からこれからを担う世代への経験や知恵の継承が必要である。
- ・防災教育の基本は、自分の住んでいる場所がどういう自然環境で成り立っているかを知ることである。
- ・身の回りのちょっとしたことから始められる防災対策もある。

(2) 質問カードによる討論

会場からの質問に答える形で以下の点について討論が行われました。要点は以下のとおりです。

- ・行政の中で防災教育を推進するための、教育部局と防災部局の連携の必要性。先進的な取組が行われている地域はその連携が感じられる。
- ・軟弱な土地での震災対策について、人口が減少に転じる将来の都市計画においては軟弱地には立地しないという視点も重要。軟弱地に住宅を建てる際は、しっかりした耐震性の確保と液状化対策を行うことが必要である。
- ・自然現象である地震を理解するため根気よく観測を続けることが重要である。

以上